



# 北の森林<sup>も</sup> 国有林<sup>り</sup>



## 市民によるポット苗木の制作

(札幌水源の森づくり 2016)

### 今月のトピック

- ・札幌水源の森づくり 2016
- ・カルチャーナイト、わくわく夏休み子ども見学デー



国民の森林・国有林

北海道森林管理局

# 札幌水源の森づくり2016

～「山の日」記念～

## ◇街の中でひとり一本苗木づくり 次代へ引き継ごう「水源の森」◇



淵上局長の挨拶

定山溪国有林は、札幌市民にとって豊かでおいしい水を育む大切な水源の森です。

この水源林である国有林の重要性を多くの人に知っていただき、水源の森との関わりを深め、貴重な財産として次代へ引き継いでいくことを目的として、平成16年から毎年、札幌市と連携し、水源の森に植えるポット苗木を市民のみなさんによっていただくイベントを開催しています。

8月27日、札幌市創成川公園・狸二条広場において、「札幌水源の森づくり2016」が開催されました。

予定していたポット苗木（カミネツコン）400個が完成し、定山溪の山をイメージした台に飾られました。



会場では多くの方にポット苗木を作っていただきました

会場では、カミネツコン（再生紙段ボール）を利用した「ポット苗木づくりコーナー」や森と水に関する理解を深めていただける「森のコーナー」（パネル展示）、「花の苗プレゼントコーナー」、森林や水についてクイズを答えながら学ぶ「クイズラリー」、東日本大震災被災地へ送る「きぼう（木棒）」にメッセージを添える「きぼう（木棒）のコーナー」などを行い、多くの参加者の皆様方に楽しんでいただきました。



「山の日」のハッピーPRするどんぐりくん

このポット苗木（カミネツコン）は、10月上旬に定山溪の水源の森（国有林）に植え、やがて大きく成長し豊かな森林になっていきます。



きぼう（木棒）のコーナー



↑クイズラリーの様子

## カルチャーナイト 2016

平成28年7月22日、北海道森林管理局では、札幌市内各施設で実施された「カルチャーナイト2016」に参加し、庁舎1階のウッドティホールを中心に「おがくす粘土で鉛筆づくり」「木の箸づくり」「木のタネの模型づくり」「山の生き物パネル展」の4つのメニューを実施しました。

カルチャーナイトとは、公共施設や文化施設、民間施設を夜間開放して、市民や観光客の方に地域文化を楽しんでいただく北欧発祥の行事で、今年札幌市内の104の施設で行われました。



当日は100名以上の方に  
お越しいただきました。

来場された方からは、「体験メニューが楽しかった」、「木への興味が深まった」、「来年も参加したい」と、スタッフの疲れも吹き飛ばうれしい声をいただきました。



# カルチャーナイト 2016



## 夏休み子ども見学デー

### わくわく夏休み子ども見学デー

#### 見学デー

平成28年7月28、29日の2日間、北海道農政事務所・北海道森林管理局主催、農畜産業振興機構札幌事務所、水産総合研究センター北海道区水産研究所の共催による「わくわく夏休み子ども見学デー」を北海道森林管理局において開催しました。



これは、普段経験できない様々な体験や物づくりを通じて、農林水産業の役割や国の施策について理解を深め、社会学習の一環として役立ててもらうことを目的として毎年実施しているものです。今年森林管理局の業務について知ってもら

ため新たに「山のお仕事」という体験メニューを追加したほか、様々な木工クラフト体験等のメニューを提供しました。



天候の悪い中でしたが、2日間で延べ約300名の方にお越しいただきました。2日間とも訪れてくれた子どもたちや、昨年引き続き参加してくれた子どもたちもおり、「楽しかった」「また来たい」という声がありました。

この日の体験をきっかけに農林水産業に興味を持ってもらえればと思いますし、子どもたちには、夏休みの思い出の一つになれば嬉しいです。

# 森林整備推進協定締結に向けた取り組み

地域課題の解決に向けた取組

渡島森林管理署

渡島森林管理署管内の民有林においては、伐採後の植栽等が完了していない箇所や適切な間伐が実施されていない箇所をどう解消していくかが重要な課題となっています。

そこで、八雲町、長万部町、山越郡森林組合等に働きかけ、民有林と国有林が共同で森林の整備に取り組み森林整備推進協定を締結して、森林の整備や路網の整備、伐採した木材の集積場所(土場)の共同利用等による施業の集約化・効率化などを図り、民有林の植栽や間伐を促進する取り組みを、モデル的に進めることとしています。

先般、八雲町、長万部町の担当者とともに、森林整備推進協定を締結し民有林

と国有林が連携して路網の整備を進めている寿都町の事例を視察し、情報共有を図ったところであり、今後は民有林と国有林が一体となって、土場の共同利用、施業の集約化等について検討するとともに、各町の首長へ直接働きかけを行い、今年度内に協定を締結することとしています。



協定締結済みの寿都町を視察

また、渡島檜山地域林政連絡会議においては、列状

間伐への理解を深めることを通じて間伐の実施率を高めるために、民有林に設定した列状間伐のモデル林を活用して現地検討会を開催することとしています。



民有林に設定した列状間伐モデル林

さらに、7月20日、北海道森林管理局及び後志森林管理署の協力により、高性能林業機械等に対応した、低コストな作業システムを構築するための「工程管理

システム」についての説明会を渡島・檜山地域の林業関係者を招き八雲町において開催しました。

今後の林業事業者等での作業システムの見える化を進めるうえでの一助になればと考えています。



八雲町での「工程管理システム」の説明会

そのほか、各自治体、林業事業者等を対象に、伐採から地拵、さらにはコンテナ苗による植栽までを一体

的に行う一貫作業システムの構築に向けた現地検討会を開催することとしています。

このような現地検討会などの開催を契機として、民有林と国有林が連携して森林の整備や路網の整備、また土場の共同利用など様々な具体の取り組みに向け協議を進めるとともに、民有林における列状間伐の推進などの地域課題への対応も進めていく考えです。

今後は次期地域管理経営計画並びに市町村の市町村森林整備計画の樹立に向けた検討の中で、地域の持続的な森林経営を確立するために森林共同施業団地の設定を目指して取り組んでいきたいと考えています。



厚岸町の基幹産業は酪農と漁業で、厚岸湖においては明治以降牡蠣の養殖が行われていましたが、上流域では、明治以降の開拓のための失火等から山火事が頻発し、湿原に囲まれているため通行が困難なことから消火活動



パイロットフォレスト

釧路湿原森林ふれあい推進センターです。当センターでは、地域の方々を対象とした森林環境教育等を行っています。先般、パイロットフォレスト（以下、PF）の下流域にある厚岸中学校の一年生がPFへ学習に訪れたのでその概要を紹介いたします。



望楼からの樹海見学

が出来ず、森林が荒廃しました。このような森林の荒廃による厚岸湖の水質の変化のため牡蠣の生産が中断に追い込まれた時期がありました。昭和31年に始まった、1万haに及びPFの造成事業には幾多の困難が待ち受けていましたが、持ちこたえていくことが出来ず、夫を加えて困難を克服し、現在は湿原を除く区域のほぼ全域がカラマツ人工林を主体とする森林で占められています。森林が再生されて、下流域の水質が改善された結果、厚岸湖の牡蠣の養殖も再び可能となりました。

厚岸中学校では、このような森林の働きと普段目に見えない林業の現場を学ぶために、厚岸湖に注ぐ別寒辺牛川の上流に位置するPFを訪れました。生徒は、PFの造成についてのDVDを視聴した後、森林の洪水を防ぐ働きや土砂の流出を防ぐ働き等の「公益的機能」についての講義を聞き、その後、PFにおける森林の保全管理や森林火災の監視を行うために設置した望楼（高さ24.4m）に上がり、カラマツ樹海見学と、遙か羅臼岳や阿寒連山の遠望を楽しみました。更には近隣で水がわき出ている場所を視察し、見渡す限りのカラマツ林と森林の水資源かん養機能の偉大さに感激していました。

また、野外学習においては手鋸を使用する枝打ち作業を行ない、最初のうちは手鋸が枝に挟まり手こずる生徒もいましたが、段々と使い方も慣れ短時間で予定の作業を終え、すっきりしたアカエツ造林地を見てご満悦の様子でした。厚岸湖の牡蠣の生産の復活には、森林が関わっていることを生徒達も話としては理解していましたが、森林は川の水量を安定させたり水質を改善するなどの様々な働きを通じて、私たちの生活に密接に係わっていることをより具体的に学び、生徒たちは興味を深めていた様子でした。



望楼前にて記念撮影

# こんにちは 森林官です!

石狩森林管理署 支笏森林事務所  
森林官  
(支笏担当区)  
矢沢 俊吾



支笏森林事務所は北海道千歳市の西部、一級河川の千歳川が流れ込む面積78.84km<sup>2</sup>に及び支笏湖のほとりに位置し、支笏湖周辺の国有林約1万4千haあまりを管理しています。



支笏湖と樽前山

**支笏湖**  
支笏湖は紋別岳・恵庭岳・樽前山等の美しい山々に囲まれた北海道でも有名な観光地の一つであり、湖周辺には温泉街やキャンプ場等様々なレジャー施設が点在しています。

ます。

また、支笏湖は隣の洞爺湖と併せて国立公園にも指定されており、春から秋にかけては外国人も含めた多数の観光客が温泉や自然とのふれあいを目的に訪れます。

冬期は支笏湖の水を使った氷像を展示する支笏湖水橋(ひょうとう)祭があり、年間を通じて人々の足音が絶えません。



支笏湖温泉街

## 森林官の仕事

### (森の復旧事業)

一般的に森林官の仕事は森林の調査や国有地と民有地との境界の管理等多岐にわたりますが、支笏において一番重要な仕事となっていてのが造林

事業、つまり森林の再成です。

何故かといいますと、支笏では平成16年の大型台風により広大な面積の木が倒れ、はげ山のような状態となり10年の歳月をかけ復興したところで

す。しかし、平成27年に爆弾低気圧が襲来し、50ha以上の被害が再び発生してしまいました。



平成27年の風倒の被害地

この低気圧によって倒れた木(風倒木)は、その見た目の悪さもさることながら、放っておくと虫が発生して周囲の森林まで被害が拡大してしまう可能性もあり、放置しておくことはできません。そのため風倒木を伐

て運び出し、そこに再び木を植えて育て森に戻すことが重要な使命となつてきますが、ことはそう簡単には運びません。

なぜなら、そこは国立公園であり、木を伐つたり運び出す道をつけるには事前に北海道や環境省と協議して許可を得る必要があるからです。

この協議はかなり厳格なもので、いかに自然や動物への影響を最小限に抑えながらやっていくか知恵を出し合いながら進めていきます。

そうしてようやく許可があり、風倒木を運びだし新しく苗木を植えても放っておけば勝手に育つて森になっていく訳ではありません。

その後も下刈りやつる切り、間伐等様々な保育作業を長期間にわたって続けていく必要があります、文字通り一朝一夕という訳にはいきません。

それでも支笏の森を再び美しく豊かな森に戻していくため、私達は今日も山の中へ入っていきま

# 各地からの便り

「各地からの便り」の詳細は

森もりスクエア

検索

## 糠平小学校で 森林環境教育を実施

【東大雪支署】

7月20日、遊々の森「小鳥の村」において、上士幌町立糠平小学校の全校児童（6名）を対象に森林環境教育を実施しました。

「小鳥の村」とは、上士幌町教育委員会と平成23年度に協定を締結している「遊々の森」の名称で、実施主体である糠平小学校では探鳥会や自然観察等の活動をしていきます。

森林環境教育は、糠平小学校のグリーンクラブの活動の一環として毎年実施しているもので、学習を通じて森林の大切さや楽しさを伝えることを目的としています。



自然観察を楽しみました

当日はウォークラリー地図を渡し、各ポイントを探しながら森林内を散策して自然観察やゲーム等の活動を行いました。

目かくしで森林内を歩くネイチャーゲームでは、「蚊の羽音」「川の音」「足下がふかふかする」など視覚に頼らないが故に気づく新たな発見がありました。

今後とも教育関係機関と連携を図り、たくさんの子供たちに森林の大切さやおもしろさなどを伝えていけるよう努めていきたいと思えます。

## みんなで木育inばんけい 2016

【石狩森林管理署】

8月17日に、札幌市立盤溪小学校において、石狩振興局森林室主催の「みんなで木育inばんけい2016」が行われ、当署から「森林のはたらき」に関するパネル展示を行いました。

森林室とは、森林環境教育などへの新しい試みで何かできないかということで、春から打ち合わせ

せ会議を重ねており、お互いの森林環境教育へ出席する中で、最終的に「木育」に関するイベントを共同開催することを目的としています。

イベントでは、木で造ったお魚を子どもたちに釣ってもらうコーナーや、杉材をシンプルな形状にしたブロック（スギックモック）を敷き詰めたり、積み上げたり並べたりするコーナー、「森林のはたらき」のパネル展示がありました。



木のお魚つりをする子どもたち

## 全木集材の実証的な実施についての現地検討会を開催

【上川中部森林管理署】

8月10日、林業の低コスト化及び木質バイオマス資源の供給に資するべく、全木集材の実証的な

実施についての現地検討会を林業事業体、上川総合振興局、研究機関を含む11名の参加により開催しました。

検討会では、単幹集材と全木集材の実施状況を確認しました。

参加者からは、「このような検討会のチャレンジに敬意を表したい」という評価や、「全木集材という言葉がわかりづらい」、「作業システムは現地に合わせて採用するべきでは」という意見が出されました。

今後においても、国有林のフィールドを活用した検討会や勉強会を行いながら、地域の森林・林業関係者とともに地域課題解決に向け取り組んでいきます。



林業事業体、振興局、研究機関との意見交換

国民の祝日「山の日」が制定され初めての祝日となった8月11日、各地でいろいろな行事が行われました。



【空知森林管理署】

夕張市の障がい者自立支援施設はれっとふぁーむにおいて「チャレンジドフェア・イン・夕張」が開催されました。



施設で育ててきたエゾサンショウウオを森の中の湿地に放流しました

このイベントは施設の利用者が地域住民等の参加者との交流や各種体験活動を通じて、「コミュニケーション力の向上」ができる個性の力を創出することを目的として行われたものです。

当署では、これまででも森林教室を行ってきた縁から、このイベントに協力させてもらうことになり、当日は施設利用者やその家族、地域のみなさん等の多数の参加がある中、「山の日」を記念した特別プログラムで森林教室を実施しました。

教室では、田之畑署長や担当者が講師を務め、草花をちりばめて楽しむ万華鏡を作り、施設に隣接する国有林で森林散策を行いながら草花を採取し、万華鏡にちりばめてのぞき、その美しさを楽しみました。



みんなで万華鏡を作りました

とても暑い一日でしたが森の中は涼しく、心地よい空気の下で、参加者のみなさんには元気に森林教室を楽しんでもらうことができました。



【十勝西部森林管理署】

十勝管内の関係団体等が協力し、「山に親しみ、山の恩恵に感謝する」各種イベントを企画しました。ニペツツ山、トムラウシ山、十勝幌尻岳、伏美岳の各登山口においては、「山のマナーアップ運動」。

伏美岳登山口では当署職員等により早朝から携帯トイシやゴミ袋などを配布し、登山者にマナーアップを呼びかけました。



登山者へマナーアップの呼びかけ

帯広市役所、帯広駅東コンコース、ひがし大雪自然館においては、十勝の美しい山岳景観や、山岳環境の保全活動などの様子をパネルや写真で紹介しました。



【北海道森林管理局】

「山の日」は、「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」日とされています。北海道森林管理局でも当別町の道民の森にある神居尻山(946.7m)の登山会を、北海道等との共催により実施し46名が参加しました。

神居尻山は登山道や標識類がよく整備されており、視界が開けている区間が多いため、気持ちよく登ることができます。「山の日」の制定をきっかけにして、多くの方に山に親しみを持っていただき山の恩恵について考えていただければと思います。



参加者で記念撮影

北海道での台風等による自然災害について

この度の北海道での大雨や台風の影響により、道内各地では、甚大な被害に見舞われました。

被害に遭われた方々には、心よりお見舞い申し上げます。

北海道森林管理局では、関係機関と連携し、森林や林道等の復旧に全力で努めて参ります。

広報 「北の森林 国有林」9月号  
発行 北海道森林管理局  
編集 総務企画部 企画課  
〒064-8537 札幌市中央区宮の森 3条7丁目70  
I P 電話 050-3160-6300  
電 話 011-622-5213  
F A X 011-622-5194

<http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/>